

平成 29 年度

日本万国博覧会記念基金 助成先の事業紹介

今年度助成の 57 件のうち、6～10 月に実施された事業の一部をご紹介します。



Silent Film Live Show (無声映画ライブショー)

事業者：Shindofuji Ireland

交付決定額：25 万円

実施期間：2017 年 6 月 23 日(金)～25 日(日)

実施地：23 日・英国：ダートフォード・グラマースクールおよび
フォイルズ・ブックショップ(ロンドン)

24 日・アイルランド：チェスター・ビーティ・ライブラリー(ダブリン)

25 日・英国：バービカン・アートセンター・シネマ 1 (ロンドン)

活動弁士の山城秀之氏とサイレントピアノ演奏家の柳下美恵氏を招聘し、英国とアイルランドにて日本のサイレント映画を活弁とピアノの即興演奏付きで上映するライブショーを実施。

英国のダートフォードでは山城氏が紙芝居の実演を行い、ロンドンのフォイルズにて観客の弁士体験を含むワークショップを実施。ロンドンのバービカン・アートセンターでは小津安二郎監督作『大人の見る繪本 生まれてはみたけれど』の 35mm フィルムを上映し、活弁とピアノの即興演奏を行いました。

アイルランドのダブリンでは、午前中に紙芝居『黄金バット』をファミリー層向けに行い、阪東妻三郎主演の侍もの『雄呂血』を活弁ピアノ演奏付きで上映しました。

事業者からは、「助成金を招聘したお二人の演者の滞在費や宣伝のための印刷費、現地での機材借用費などの一部に充てることができ、本事業を進めるにあたり大きな支援となった。万博記念基金の助成のおかげで、私どものような小規模な非営利団体が国際文化交流を実施できたのだと実感している」との声をいただきました。



上映の様子(ロンドン バービカンセンターにて)



上映前の会場(ダブリン チェスター・ビーティ・ライブラリーにて)

(写真提供:Shindofuji Ireland)

第 17 回 レスキューロボットコンテスト

事業者：一般社団法人アール・アンド・アールコミュニティー

交付決定額：70 万円

実施期間：2017 年 6 月 25 日(日)～8 月 12 日(土)

実施地：本 選…神戸サンボーホール(兵庫県神戸市中央区)

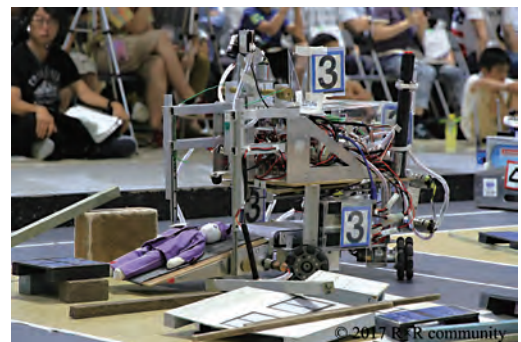
大阪予選…大阪府立北大阪高等職業技術専門学校(大阪府枚方市)

東京予選…東京都立産業技術高等専門学校 荒川キャンパス(東京都荒川区)

2001 年から毎年開催されている救助活動がテーマのロボットコンテストで、今年で 17 回目。6 月から予選を開催し、8 月には全国から 14 チームが集まり本選を行いました。今回は、韓国で活動しているロボットコンテスト研究者を初めて招待し、関西発のロボットコンテストとして国際化の一步を踏み出しました。災害対策や救助活動の高度化は、世界共通のテーマです。自然災害が多い日本から世界に向けて、ロボットコンテストという表現方法で国際文化交流、国際親善、日本のロボット技術・災害対応技術の発信、さらには若者の人材育成にも寄与しています。



厳正な審査をおこなう審判団



負傷者を模した人形をロボットが救助

(写真提供:一般社団法人アール・アンド・アールコミュニティー)

「ICT×アート」 協働制作を通して学ぶ 児童のための多文化共生サマースクール

事業者：特定非営利活動法人パンゲア

交付決定額：140万円

実施期間：2017年8月2日(水)～8月9日(水)

実施地：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール



制作発表会

カンボジア、韓国、ケニア、日本の計34名の児童が集う7泊8日の「児童のための京都異文化サマースクール」です。児童は4チームに分かれ、チーム内で協力してクレイ(粘土)アニメーション作品を制作しました。1人に1台ずつコンピュータが貸与され、機械翻訳による多言語ディスカッションツールを用いて、作品のシナリオや作業分担などについて議論を重ねました。全チームが多様な発想力で表現力豊かな作品を完成させ、プレゼンテーションを行いました。

また、国立民族学博物館にて課外学習を行い、お互いの国の文化の理解を深めました。宿舎ではタレントショーを開催し、日本の児童が茶道を、ケニアの児童がダンスを披露するなど、文化交流を楽しみました。

参加児童は、国を越えてお互いを尊重し、強い絆を育む貴重な時間を過ごしました。



作品制作風景

(写真提供:特定非営利活動法人パンゲア)

日・チェコ国際共同公演「ゴーレム」

事業者：一般社団法人 一条座(いっしざ)

交付決定額：300万円

実施期間：2017年9月28日(木)～10月1日(日)

実施地：座・高円寺2

チェコと日本の糸あやつり人形と俳優達による共同公演です。生命や魂、精神といったものを表現するにはどのような方法が最適なのか、一条座では人間の表現方法や人形の表現方法を探るために、長期間かけて演技のワークショップを行い、互いの表現方法を体験してきました。本公演は、その体験を基本として、人間と人形が混交した新たな演技を探求しようというものです。

日本の糸あやつり人形と俳優・音楽・総合演出に、チェコの人形遣い・俳優・演出家に加わり、チェコの伝説を元にした作品「ゴーレム」を制作しました。

日本とチェコには、昔から優れた人形劇がありますが、これまで一度も同じ舞台に立ったことはありません。今回の日・チェコ国際共同公演で初めて共演ができたことは大変刺激的で、互いの文化を理解し合い、一つの作品を創り上げていくことの大切さを考えさせるものとなりました。そして、今後も海外との共同公演を行うにあたって、大きな一歩となりました。



(写真:荒川健一)

大阪城本丸新能2017

事業者：大阪城本丸新能実行委員会

交付決定額：200万円

実施期間：2017年10月7日(土)～9日(月・祝)

実施地：大阪城本丸広場特設能舞台

雄大な大阪城を借景に能舞台を設置し、日本全国から人気能楽師が集結する大阪城本丸新能が3日間開催され、約1500名の来場者がありました。初めての鑑賞者から能の愛好家まで楽しめるように、人気曲で短めの能を二番、リズムカルな狂言を一番上演しました。シテ方観世流の大槻文藏氏(人間国宝)、芸養子で人気急上昇中の若手能楽師大槻裕一氏、ワキ方福王流宗家の福王茂十郎氏、狂言方和泉流の野村萬斎氏は3夜連続の出演で、獅子や大仏や鬼など、さまざまな役を次々に好演しました。

万博記念基金の助成によって、良い意味でエンターテインメント性を抽出した公演が実現し、興味深く楽しみ、さらには「次は能楽堂で観てみよう」と感じられる公演となりました。



能「石橋(しゃっきょう)」
白獅子:大槻文藏
赤獅子:大槻裕一



(撮影:森口ミツル)